

情報職業論 -“情報”を生業（なりわい）とするために-

単位数	ナンバリングコード		
2	DIF406		
	教員名	畑 裕子	
	専門	代数学 情報処理	
	出身校等	北海道教育大学釧路校 教育学部 中学数学課程	
	現職	北海道情報大学 非常勤講師	
授業形態			
前期印刷授業・後期印刷授業			
授業範囲		試験範囲	
講義動画（講義の方針・計画を参照）のすべて		講義動画（講義の方針・計画を参照）のすべて	
		【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただしWebページ（通信教育部POLITEを除く） と生成系AIの参照は不可とする。	
科目の概要			
<p>IT技術は急速な進展を遂げており、企業などの情報システムの開発に従事するIT技術者を取り巻く状況は大きく変化してきている。</p> <p>本科目は、情報産業の業務内容、情報産業で働く人にとって必要となる知識と情報に関して、情報化社会の進展と職業の関連を考察しながら、最新の情報や統計等をもとに講義する。その内容は、コンピュータの出現により始まった情報産業の現状及び将来、情報産業におけるシステムエンジニア（SE）、プログラマ及びシステムアナリスト等の職種、職務内容と資格、マルチメディア系の職種と資格、医療情報技師の資格、著作権及びマルウェアやインターネットサーバへの不正侵入等の情報モラル、情報産業の業務内容をとおしての職業倫理を含む職業観と勤労観である。</p> <p>特に、どのような技術の発展や経済状況であろうがIT技術者として従事するものには、IT技術者として必要な、不変的なモラルや勤労観があることを学ぶ。</p> <p>なお、本科目は教職課程を選択した学生にとっては必須の科目である。</p>			
授業における学修の到達目標			
情報産業で働く人あるいは教職課程を選択した学生にとって必要となる知識及び情報が理解できるようになることを目標とする。			
講義の方針・計画			
講義計画および対応する講義動画			
第1回：コンピュータの歴史→(1)情報職業論1-1-1、(2)情報職業論1-1-2			
第2回：クラウド社会について→(3)情報職業論1-2-1			
第3回：情報産業の現状と将来→(4)情報職業論1-3-1			
第4回：ビッグデータ社会について→(5)情報職業論1-4-1			
第5回：情報産業の発展と将来のまとめ			
第6回：ITの職業→(6)情報職業論2-1-1			
第7回：IT技術者の倫理観→(7)情報職業論2-2-1			
第8回：情報社会の法制度→(8)情報職業論2-3-1			
第9回：ハイテク犯罪→(9)情報職業論2-4-1			

講義の方針・計画

第10回：ITの職業と情報モラルのまとめ→(9)情報職業論2-4-1？

第11回：情報産業における業務→(10)情報職業論3-1-1

第12回：プロジェクトについて→(11)情報職業論3-2-1

第13回：プロジェクトの進め方→(12)情報職業論3-3-1

第14回：IT技術者の勤労観→(13)情報職業論3-4-1

第15回：情報産業における業務と勤労観のまとめ

講義動画URL

(1)情報職業論1-1-1

<https://youtu.be/ffprDOiZDp0>

(2)情報職業論1-1-2

<https://youtu.be/qpAzhD06j-Y>

(3)情報職業論1-2-1

<https://youtu.be/3A000j3waEY>

(4)情報職業論1-3-1

<https://youtu.be/8-0drRR-aAs>

(5)情報職業論1-4-1

<https://youtu.be/N2JvJLxet-0>

(6)情報職業論2-1-1

<https://youtu.be/wG0PskHlnr8>

(7)情報職業論2-2-1

<https://youtu.be/ZU4tF4XRFRI>

(8)情報職業論2-3-1

<https://youtu.be/AbnPBpVBgKU>

(9)情報職業論2-4-1

<https://youtu.be/0lZRf4ux5DQ>

(10)情報職業論3-1-1

<https://youtu.be/D65xXWVQVzo>

(11)情報職業論3-2-1

https://youtu.be/cPokd6Q_PQc

(12)情報職業論3-3-1

<https://youtu.be/yOXYJ0UAI6M>

(13)情報職業論3-4-1

<https://youtu.be/O9KU8RcYR4g>

動画内でテキストに言及している箇所があるが、本科目の履修、レポート作成、科目試験受験にテキストの入手は不要である。

準備学習

講義動画の内容の他に全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としいる。講義動画中のわからない用語や内容は、Webサイトや参考文献で検索することが準備学習として必要である。第5回および第15回は自分なりのまとめを復習として行うことが求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法

印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。

成績評価の方法およびその基準

科目試験による評価100%

教科書

なし

参考書
なし
その他
講義動画をすべて視聴すること。
試験期間
シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2026学年暦」を参照
学習プリント
なし
教職科目
情報5の1（必修）、情報6の4
関連受講科目
なし
担当教員の実務経験
百貨店、病院、保険会社のシステム構築にシステムエンジニアとして参画した後、1990年より北海道情報専門学校で情報処理教育に従事してきた。1998年からは電子開発学園メディア教育センターで衛星通信と専用ネットワークを使った遠隔教育システムを運用し、講師兼マネージャとして、専門学校と大学の授業を配信する業務を行っている。「情報職業論」では自身の経験をもとに教育の現場、システム開発の現場で起こりうるさまざまな問題を受講生と共有し考察する教育を実施する。